



令和2年度スポーツ産業の成長促進事業「中央競技団体の経営力強化推進事業」  
(戦略的普及・マーケティングの実施)

# Triathlon

成果報告書【概要版】

2021年3月 公益社団法人 日本トライアスロン連合

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、《公益社団法人日本トライアスロン連合》が実施した令和2年度スポーツ産業の成長促進事業「中央競技団体の経営力強化推進事業」（戦略的普及・マーケティングの実施）の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

# 1. 事業実施背景

## 事業趣旨・目的

### IT技術等を活用した「トライアスロン＝健康スポーツ計画」の推進

- ・社会課題であるスポーツを通じた健康増進について、中央競技団体として競技団体が持つ権利と会員基盤DBとITU技術・他産業サービスを掛け合わせ健康スポーツを切り口としたサービスを展開し、競技者の満足度の向上、競技者数の拡大を図り、「トライアスロンの健康スポーツ」として立ち位置の確立させる。
- ・本事業での支援も受け、NF自らが保有する権利・資産をNF自身で戦略的に活用し、自立した経営を推進することで、競技団体の成功事例としてのロールモデルとなること目指す。

## ミッション・ビジョン・中長期戦略

**<Mission> 使命 (=目的)** トライアスロン競技の更なる強化・普及を図り、健全な心身の発達に努め、競技団体としての社会的地位向上を図る

**<Vision> 役割 (=目標)** **[組織]** スポーツ界をリードする信頼されるグローバルな組織の確立 (トライアスロンの社会的価値創出、安全・安心な競技環境整備)  
**[強化]** 継続性のあるアスリートの育成強化 (オリパラでのメダル獲得、トップレベルの選手・指導者の強化、育成システム確立)  
**[普及]** 社会に調和と融合するトライアスロンの普及活動の推進 (会員登録数、競技愛好者数、国内大会数の増加)

**<Activity> 活動 (=手段)**

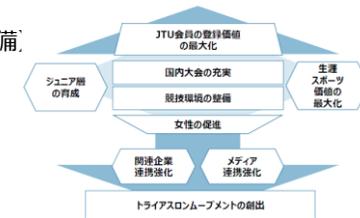
- ・JTU会員登録価値の最大化
- ・国内大会の充実
- ・関連企業・メディア連携強化
- ・生涯スポーツとしての価値の最大化
- ・競技環境の整備
- ・トライアスロンムーブメントの創出

### 【戦略・実行計画策定】

目標達成 (現状とのギャップを埋める) に向け、会員登録や大会参加価値を高める施策を推進。

Visionの中の具体的な目標  
**「555計画」(普及のみ数値目標設定)**  
 ①会員登録数の増加: 5万人 (2019年: 3万人)  
 ②競技愛好者数: 50万人 (2019年: 37.5万人)  
 ③国内大会数: 500大会 (2019年: 290大会)

\* 図 : Activity 活動



上記を推進するために「トライアスロン＝健康スポーツ計画」を掲げ本事業の実施を推進していく。

## アクションプラン

### 1) デジタルプラットフォームの構築



2019年度スポーツ産業の成長促進事業「スポーツ団体経営力強化推進事業」対象事業 (実施内容・機能の要件定義)

JTU会員登録の価値最大化 及び トライアスロンムーブメントの創出に向けて、JTU会員向け「マイページ」を充実させ、JTU会員の満足度向上、大会参加数増加につなげる。

### 2) 動画関連サービスの拡充



登録会員や関係者とのコミュニケーションツールとして動画を用いたサービスの展開を推進するため、専門チームを立ち上げ、動画サービスの収益化を図る。

### 3) 「健康スポーツ＝トライアスロン」リアル×バーチャル サービスの推進



バーチャルバイクアプリを活用したトレーニングサービス、オンライントレーニングサポートサービス、IoT端末・ウェアラブル端末を活用した大会運営サービスなど、健康を機軸にリアルとバーチャルを融合したサービスを展開する。

## 2. 事業実施スケジュール

### 事業スケジュール

実施時期	事業項目			
	(1) デジタルプラットフォームの構築	(2) 動画サービス	(3) バーチャル サービス	(4) 契約・報告書
8月				契約締結 (8月27日)
9月	キックオフMTG	キックオフMTG ・定例MTG ・各種コンテンツ配信 (適宜) ・メディア実態調査 (定期調査)	キックオフMTG ・実証テスト開始 (既存サービス)	
10月	機能開発着手 (第一次)	↓	・オリジナルコンテンツの作成検討	
11月		↓		
12月	会員登録あり方アンケートの実施	↓	レビュー	
1月		↓		
2月	機能開発デモサイト (第一次)	↓		
3月	レビュー	レビュー	レビュー	完了報告書提出 成果報告書提出

#### (1) デジタルプラットフォームの構築

・2020年9月：開発着手 ・2020年9月～2021年1月：開発スケジュール検討、認証連携検討、インフラ・非機能要件検討 ・2021年2月：画面設計およびデザイン制作・Webアプリケーションデモ

#### (2) 動画サービス

・2020年9月：キックオフMTG ・SNSディレクターとPJ進行アシスタントディレクターの配置・新样式に応じたコンテンツ事例調査・コンテンツ配信方針の決定「# Withコロナ # 社会貢献 # 健康スポーツ」

・2020年9月～2021年3月：コンテンツ配信、週1回の定例MTGによる進行管理 ・2021年3月：評価検証MTG

#### (3) バーチャルサービス

・2020年9月：既存サービスの実施利用テスト (サンプル競技者にてテスト) ・2020年10月～：国内デモコースの登録検証 ・2021年3月：評価検証MTG

### 3. ①トライアスロンデジタルプラットフォームの構築の推進

#### 事業趣旨・目的

2019年度スポーツ産業の成長促進事業「スポーツ団体経営力強化推進事業」中央競技団体による普及・マーケティングに係るモデル形成支援事業において要件定義を実施。要件定義内容を軸に、本事業において構築の推進を行う。現在分散管理されている、選手の大会エントリー情報やリザルト・練習記録・写真などの情報を集約。選手の活動データをプラットフォーム上に一元管理・ビッグデータ化をすることで、選手に対するサービス向上だけでなく、安心安全な大会運営に役立てるほか、将来的には関連企業や団体へデータを提供し、新サービス・商品の開発や販売促進に活用を行う。

#### 実施内容と体制

・2019年度に実施の要件定義を軸に「マイポータル」サービスの機能構築を行う。令和2年度はリザルト表示機能・お知らせ機能の構築と会員システムの連携を行う。

#### ■実施体制イメージ



公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU) ・役割：全体進行管理

NTTグループ (ソフトクリエイティブ株式会社) ・役割：既存の会員登録システム管理  
 ・実施事項1：マイポータルDBとの連携にかかる専門スタッフ・ディレクターの配置  
 →富士通とのシステム連携実装にあたりスケジュール機能要件の確認  
 進行管理のため専門的知見を有する人材を配置。  
 ・実施事項2：マイポータルDBとのシステム連携・拡張開発  
 →既存の会員登録システムはNTTグループにて開発管理。  
 システム連携のためセキュリティ含めた連携と機能拡張を実施。

富士通株式会社 ・役割：マイポータルシステム開発

・実施事項：画面設計およびデザイン制作と  
 WEBアプリケーションデモページの実装  
 →2019年に要件定義したフェーズ1 画面デザインを基に  
 Web画面の設計およびデザイン制作を実施。作成したデザインをWEBアプリ化しテスト環境に公開し、関係者でデモ確認を行う。



#### 成果と課題

- ・成果物：ポータルサイトフェーズ1 (リザルト表示機能とお知らせ機能) の各画面設計およびデザインデモページ
- ・課題：
  - ・令和2年度は約6ヶ月の制作期間の中でデモページの制作まで完了予定
  - ・2021年度中に本番環境リリースと会員の利用実態評価まで実施することを目指す

## 4. ② SNS (動画含む) 関連サービスの推進 (ステークホルダー連携)

### 事業趣旨・目的

競技団体が保有するコンテンツ (権利・資産) を活用したコミュニケーション手法が、収益化 (広告効果)、情報の伝達力などの観点から非常に重要となる。動画を含むコンテンツの管理運用の内制化の推進を行い、自社メディアとしての動画活用の推進を図る。令和2年度は継続して新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応に迫られ、多くの大会や事業が延期・中止を余儀なくされた。そのような状況からも、新様式での生活様式に応じたコンテンツ配信、パートナー企業など関連ステークホルダーのアクティビティの開発を軸に、コンテンツの配信を行った。

### 実施内容と体制

1) マーケティング事業局を中心とした、プロジェクト推進チームの立ち上げ

#### ■実施体制

#### 公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU)

### Triathlon

- ・マーケティング事業局 (新設) 事業局長 (責任者/常勤職員)
- ・事務局 : 広報担当 (常勤職員)

#### ・SNS推進ディレクター (本事業配置)

- ・役割 : 全体進行管理・動画・SNSコンテンツの制作

#### ・PJ進行アシスタントディレクター (本事業配置)

- ・マーケティング事業局長全般サポートと社会貢献事業の進行管理

#### ニールセンスポーツ



役割 : 外部専門スキルアドバイザー

実施事項 :

- ・新様式に応じたコンテンツ事例調査
- ・メディア実態調査 (定期調査)

#### ■新型コロナ コンテンツ事例調査



→Withコロナの環境下の中、各スポーツのコロナ渦中におけるコンテンツ事例の調査分析をニールセンスポーツと連携し実施。競技団体のもつ権利・資産の中でどの様な打ち手が効果的であるかの検証を行い、事務局内に設置したマーケティング事業局を中心に、SNSおよびPJ推進のアシスタントディレクターを配置し、コンテンツの制作と配信を行なった。

### 実施時期

- ・2020年9月 : キックオフMTG
- ・SNSディレクターとPJ進行アシスタントディレクターの配置。
- ・新様式に応じたコンテンツ事例調査。
- ・コンテンツ配信方針の決定「 # Withコロナ # 社会貢献 # 健康スポーツ」
- ・2020年9月~2021年3月 : コンテンツ配信、週1回の定例MTGによる進行管理
- ・2021年3月 : 評価検証MTG

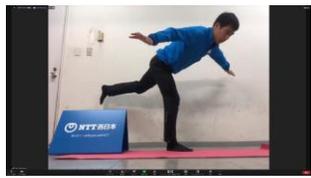
## 4. ② SNS (動画含む) 関連サービスの推進 (ステークホルダー連携)

する

### 1) NTT東日本・NTT西日本社会貢献事業

「バーチャルトレーニング」

「オンラインセミナー」



アドボードを設置したオンライントレーニング

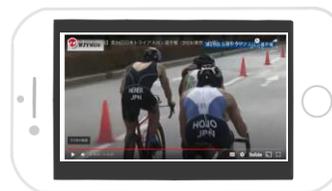
NF会議室に配信・制作用のスタジオを設置

新生活様式に応じ「今、トライアスロンが出来ることを」をキャッチコピーに社会貢献事業としてトップパートナーのNTT東日本・NTT西日本と連携を行い、都道府県加盟団体を中心に実施される事業の支援プログラムを実施。オンラインセミナー、バーチャルトレーニング、をSNS上で集約し、支援企業のアクティビティとしてトライアスロンファミリーに訴求。多くの大会が延期・中止となったなか、オンラインを中心にパートナー企業とスポーツ・トライアスロン競技を通じて、競技者、競技関係者、社会と連帯感を情勢することができた。

みる

### 2) リアルとバーチャルを融合した観戦スタイルの構築

「日本選手権オンラインライブ配信」



2020年11月に東京・台場で実施された日本選手権をテストケースとし、オンラインライブ配信を実施。本大会はメインエリアを感染対策の一貫から、完全無観客での開催を行った。また、トライアスロン競技は屋外路上観戦型の競技であることから、路上観戦の場合、全レースの模様を把握することができない。オンライン中継を活用することで、例えば密にならないデッキの上から「リアル」の競技を俯瞰して眺め、手元ではインターネット中継で観戦するなど「ライブ感」を活かしながらの観戦スタイルをテストすることができた。

ささえる

### 3) 競技団体のマーケティング戦略をパートナー企業の公式チャンネルと連携し浸透・推進



【SPORTS BIZ・スポーツBiz公式チャンネル】との連携

スポーツマネジメント会社の株式会社スポーツBizと連携を行い、マーケティング事業局長が自ら競技団体のマーケティング戦略を発信するコンテンツを制作。「トライアスロン＝健康スポーツ計画」実現に向けた短中長期計画の策定ポイントやパートナー/サポート企業とのマーケティング推進の状況を発信。競技の内容や結果、トレーニング方法などではない切り口で、競技団体の「マーケティング活動」そのものをコンテンツとした。

### 成果と課題

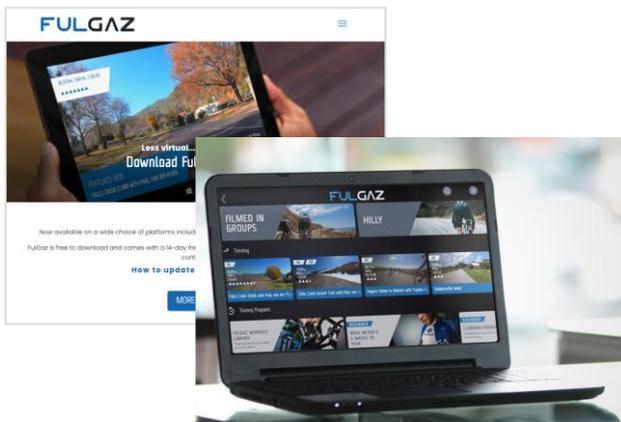
- SNSのフォロワー数は約10%増、Youtubeのチャンネル登録数には約50%増という効果が見られた(2020/12月末時点)。
- 第26回日本トライアスロン選手権(2020/12/22時点で2.8万回視聴)をはじめとし、動画でトライアスロンを楽しむ人口が増加し、動画視聴者から「現地で応援に行けないけれど、WEBで配信してくれて嬉しい」「気軽に観戦できる」などの声を頂いた
- Withコロナの中、「トライアスロン＝健康スポーツ」のNFの中長期目標に向け、「地域との連帯」と「ステークホルダーとの共通価値の創造」を軸にオンラインを活用し、マーケティング連携を実施。結果、パートナー/サポート企業との継続契約に繋がっている。2021年度以降はさらにコンテンツを拡充し、トライアスロンファミリーが望むコンテンツはもちろんのこと、競技団体の価値を高めるための情報配信など行っていく必要がある。

## 事業趣旨・目的

登録会員（一般競技者）登録増に向け、「過酷」なイメージから、「健康スポーツ」へのシフトチェンジが求められている。日常的にフィットネスとして行われるスイム（プール）、バイク（自転車）、ランの活動を、IT技術の活用によりデータ化やゲーム性を持たせることで、楽しみながら、健康とスポーツをトライアスロンを通じて体験できる機会の創出を行う。

## 実施内容と体制

## 1) オンラインバイクトレーニングアプリのサービス実装検証



## 1) 既存のバイクトレーニングアプリと連携検証

オンラインバイクトレーニングアプリのサービスを実施するフルガス社をテスト事例として、同社の協力を受け、JTU独自サービスとしての検証を行なった。

## 2) エリート選手へのサービス実施利用テスト

国内エリート選手を中心に、既存の本サービスの利用テストを実施。機能として活用に値するサービスであることが確認できた一方で、国内の实在コースなどJTU会員に向けた独自サービスとする場合の实在するコースなど、よりリアリティを高めた「コースコンテンツ」を望む声があることがわかった。



## 3) 国内实在コースの登録検証

「コースコンテンツ」整備にあたり、実際のトライアスロンコースを撮影し、システムに取り組みることが必要である。トライアスロン競技のバイク競技は基本交通規制を行い、コース設定することが基本となるが、令和2年度撮影を予定していた大会が延期となり登録検証が完了していない。類似コースなどの撮影など、コンテンツ制作費用なども継続検討課題であり、次年度以降、コンテンツ登録方法など継続検討を行う必要がある。

## 成果と課題

・オンラインバイクトレーニングアプリについては、独自コンテンツの設定が大きなポイントとなることから、制作費用・システム運用管理費用など収支面も踏まえて継続して検証を行っていく。